

スポーツ・サイエンス・インスティテュート(SSI)

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちを対象とする SSI において、アスリート学生たちの実態をふまえながら、履修指導・学習指導においてきめ細かな対応がなされている点は、とくに高く評価できる。卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、教員にフィードバックを行っているのも、優れた取り組みである。高大接続やキャリア教育も適切に実施されている。

教育課程・教育内容に関しては、各学部で SSI 専門科目を提供するように依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携は、一定の成果を得ている。SSI 参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を進展される取り組みについては、継続的な粘り強い努力を期待したい。

ただし年度目標において、委員会の開催そのものを年度目標や達成指標としたり、年度目標と達成指標に同一の文言を記したりする点については、改善が望まれる。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学の方針により年度を通して、全ての授業をオンラインで実施した。そのような中でも、概ね年度目標に沿った取り組みを行うことができた。特に「重点目標」に掲げた日本スポーツ協会のスポーツ指導者制度改定に伴う本インスティテュートのカリキュラム変更については、カリキュラム委員を中心に日本スポーツ協会と連携を図り、滞りなく実施（達成）できた。このことは今年度（2021年度）の重点目標につながる成果であった。

大学評価委員会の評価結果は、概ね良好であったと認識できるため、引き続き年度目標の達成を強く意識し、コロナ禍における授業運営をより良いものを目指す。その一方で指摘のあった、委員会の開催そのものを年度目標にし、達成指標としたこと、また年度目標と達成指標に同一の文言を記入したことに関しては、大いに反省するところであり、2021年度で改善を図った。

SSI は市ヶ谷および多摩キャンパスの参加学部（10学部）によって成り立っており、それぞれが所属する学部と SSI におけるカリキュラムの融合を図り、キャリアプランの幅を広げることが可能となっている。またアスリートのセカンドキャリアを意識した科目も配置されている。加えて SSI 生は現役アスリートであるため、スポーツ技術（パフォーマンス）の向上に寄与するスポーツ医・科学に基づいた専門科目も多く配置している。

今年度（2021年度）は、これまでの実績をもとにした、2024年度に向けたカリキュラム改定の準備（ロードマップの作成など）を重点目標にしている。今後も自己点検・評価を真摯に実施し、授業における質保証を十分担保しつつも、新しいことにチャレンジしていくことを目指す。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSI は、2020年度の「重点目標」に掲げた日本スポーツ協会のスポーツ指導者制度改定に伴う本インスティテュートのカリキュラム変更について、カリキュラム委員を中心に日本スポーツ協会と連携を図り、滞りなく実施（達成）できたことは大いに評価することができる。

質保証委員会に関しては、質保証委員会を年2回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証するほか、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証するなどして 2021年度で改善を図った点も評価することができる。

ただし、授業評価アンケートや成績、個別意見などが、特にオンライン授業の質保証にどのような形で生かされたのかをより具体的に検討し、結果の検証と次年度授業への反映の方法をさらに明確なものにすることが望まれる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>現行の SSI カリキュラムは、2015 年度に SSI カリキュラムポリシーに則って改定を行い、運用してきたものであり、限られた総コマ数の中で、幅広い教育内容に触れる機会を提供するため、教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを確保したことが特徴であった。</p> <p>2016 年度第 4 回運営委員会、2017 年度第 1 回運営委員会において、SSI 生が所属する学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらうよう SSI 参加 10 学部へ依頼した。本件については、2021 年度も引き続き参加学部に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の抛出を依頼していく。</p> <p>SSI 生の特殊性を考慮した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」について、2017 年度に具体的な内容や評価方法などが議論され、2018 年度から開講した。その結果、全ての競技に取り組む SSI 生が履修できるようになり、科目履修の平等性が確保された。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>日本スポーツ協会が推進するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更（名称変更）を実施した。</p> <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSI 履修要項・講義概要（シラバス） ・ 2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2017 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2020 年度末 SSI 運営委員会議事録 	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生は各学部の本籍を置くため、各学部で行われている初年時教育（基礎演習など）に参加している。SSI においては、基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また 2018 年度より開講されている「オリンピック・パラリンピックを考える」については、新型コロナウイルスの影響によってオリンピック・パラリンピック開催が延期されたにも関わらず、高大接続の推進を目指して 3 つの付属高の生徒にも公開された。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
③学生の社会的及び職業的自立を促すために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育に関しては、ILAC 科目 0 群に配備され、全学共通の公開科目となっている「キャリア教育プログラム」を利用しているほか、SSI 生が所属する各学部において実施されているキャリア教育も受けている。また SSI 独自に展開しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。これらは選択科目であるが、SSI 生の多くが受講していることが確認されている。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSI 履修要項、講義概要（シラバス） ・ 2020 年度春学期 SSI 受講者数一覧 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年、大学入学前の 3 月末に、SSI 新入生を対象に SSI ガイダンスを行っている。 ・ SSI 生が所属する学部によって、年度当初に行われる学部・学科ガイダンスが終了後、履修方法などに関する SSI 生を対象とした個別のガイダンスを行っている。 ・ クラブによっては、上記に加え、部長（専任教員）が履修および学習に関わる指導を行っている旨の報告を受けている。 ・ 2021 年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2020 年度同様に対面でのガイダンスを実施せず、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン（オンデマンド形式）でガイダンスを行った。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本来は、例年通り大学入学前の 3 月末に SSI に所属する全学生を対象に SSI ガイダンスを行う予定であったが、本年度は昨年度につづき、新型コロナウイルス感染防止のため、「学習支援システム」を通じて、オンラインによりガイダンスを行うことになった。ガイダンスでは Microsoft PowerPoint で作成した資料に沿って、音声ファイルによる説明と指導を行った。履修登録は、「学習支援システム」を通じて行ったが、不慣れなどの理由で履修手続きが困難な学生に対しては、所属学部事務窓口および SSI 事務相談窓口で履修サポートを行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20210323140800/) ・ SSI 履修のポイント（SSI カリキュラム委員会作成） ・ 2021 年度第 2 回 SSI 運営委員会 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>例年、新年度が始まる直前の 3 月末に SSI 新入生ガイダンスを行い、その中で大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立や履修のポイントなど、修学上の注意事項を執行部の教員を中心に説明している。しかし、新型コロナウイルス感染予防の観点から、本年度は対面でのガイダンスを行わず、昨年度同様に大学ホームページ（SSI 関連ページ）を介し、動画ファイルと音声ファイル、履修の手引きなどを用いて修学上の指導を行った。加えて、履修困難な学生に対して、SSI 事務相談窓口を設置し、履修支援を行った。</p> <p>SSI 生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンスおよび各学部学科のオリエンテーションやガイダンスにおいて指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また SSI 生が「学習支援システム」を有効に活用できるようにするため、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。</p> <p>成績不振者に対する指導は、運営委員会および FD ミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後はさらに関係各所と情報共有を図り、より一層学部と協力して学習のサポートができるよう検討する。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各授業の学習支援システム 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>全ての科目で授業時間外に行うべき学習活動（準備学習など）が指示されており、その内容はシラバスを通じて周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」から事前に配布し、準備学習を行うよう促している。また今年度から課題に対してのフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法は各授業のシラバスにも明記してある。</p> <p>学生が「学習支援システム」を活用できるよう、教員各々が担当する授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを活用できていない学生が見られた場合は、SSI 事務相談窓口と執行部で連携を図り、迅速に問題解決を図る。</p> <p>また授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対し、「学習支援システム」を通じて、動画を提供する授業が行われている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業の学習支援システム SSI 履修要項・講義概要（シラバス） 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。 テーマを与えて、グループ・ディスカッションやディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。 Zoomを用いたリアルタイムの授業では、ブレイクアウトルーム機能を活用している授業がある。 「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業の学習支援システム SSI 履修要項・講義概要（シラバス） 	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>SSI は学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合がある。現在は SSI 参加学部（10 学部）から SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。今後はさらに参加学部へ依頼して科目数の増加を目指す努力を行う。</p> <p>一方で、スリム化対象となる過小人数受講者の授業も見られるため、全体的なバランスを考慮して受講者数の極端な偏りについて検討する必要がある。今年度は予め過小人数受講者の授業に対して、オンライン形式を科目担当教員に依頼した結果、5月時点で全ての授業が改善された。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI の特性として、早朝練習があるクラブの学生や1時限の履修を控える学生に対して、オンラインにしたところ、履修者の改善が認められた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・2021年度 SSI 履修状況一覧（未発表）</p>	
<p>⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、SSI の全ての授業がオンラインへの対応を余儀なくされた。オンライン形式は、リアルタイム型やオンデマンド型、資料配信型とし、個々の授業については担当教員の裁量に応じて実施した。オンライン授業では、自宅で聴講する学生が多く認められたため、通信環境に配慮して授業全体の構成（オンライン配信時間と課題取り組み時間）を工夫した。また環境整備が遅れた学生に対しては、後日個別に対応した科目も認められた。リアルタイム型の授業では、毎回の中で学業面や生活面、体調面について学生より聴取し、心身の健康に配慮した授業もあった。成績評価に関しては、授業実施後に課題（リアクションペーパー、小テスト、ショートレポートなど）を課した授業が多く認められた。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 成績評価は基本的に担当教員の裁量事項であるが、S から D・E までの評価割合は執行部として把握している。特に S の割合については、大学の基準を周知している。 SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価法に関する意見交換を行っている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> GPCA 平均集計表（全学および SSI） 	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> データの把握主体：SSI 執行部および SSI 運営委員 把握方法：学務部によって集計された全学および SSI の GPCA などに関するデータをもとに、SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて共有、把握している。 データの種類：成績上位者の分布や進級状況など 	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> GPCA 平均集計表（全学および SSI） 2020 年度年度末 SSI 運営委員会議事録 	
<p>②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>SSI 生は各学部にも所属していると同時に、各自専門競技に特化した活動を行っている。それらの特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、2018 年度より「スポーツ実習 I・II」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標としている。</p> <p>また「スポーツ実習 I・II」において、受講生が事前に提出する申請書や事後に提出する報告書を参考に、学生自らが自身の成長を把握、評価できるような仕組みを導入している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017年度第4回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた4年生を対象に「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートでは、SSI主催科目に関するヒアリングを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約・把握し、SSI運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI主催科目担当教員によって、定期的にFDミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しを行っている。 ・質保証委員がシラバスチェックを担当し、シラバスの表現方法や不足分について、正確に記載するよう担当教員に促している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI は、日本スポーツ協会が推進するスポーツ指導者制度の改定に伴いカリキュラム変更（名称変更）を実施したこと、初年次教育・高大接続の一環として「オリンピック・パラリンピックを考える」という科目が3つの付属高の生徒にも公開されたことなど、教育課程・内容の見直しが着実にはかられている。

今年度から課題に対してのフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法を各授業のシラバスにも明記している点は評価できる。また、早朝練習があるクラブの学生や1時限の履修を控える SSI の学生に対して、オンライン授業を実施するなど履修改善の効果を上げている。

SSI 生は各自専門競技に特化した活動を行っていることから、2018 年度より「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標にするという独自の取り組みを行っている。

専門競技を行っている学生を対象に学部を超えたインスティテュートプログラムを設置し、スポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とする教育を長年実施して、実績を積み上げてきたことは高く評価することができる。

2 教員・教員組織

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①組織内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っている。 質保証委員会を設置し、執行部と連携を取りつつ、FD 推進センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。 全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。 2020 年度は新型コロナウイルスの影響もあり、年度当初計画していた FD ミーティングが開催できなかった。その対応として、年度末に開催した第 12 回 SSI 運営委員会に続いて FD ミーティングを開催し、コロナ禍で実施したオンライン授業に関する報告や問題点、その改善方法、今後の課題などについて意見交換を行った。 <p>【2020 年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <p>第 1 回 FD ミーティング（2020 年 3 月 17 日にオンラインで開催）</p> <p>テーマ：コロナ禍におけるオンライン授業のあり方—授業紹介と今後の展望—</p> <p>参加人数：7 名</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、SSI 運営委員会は全てオンライン（メール審議および Zoom によるリアルタイムミーティング）で行ったため、FD ミーティングについてもオンライン（Zoom によるリアルタイム型）で開催した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 科目シラバス原稿の手引き続き 法政大学シラバス WEB 入稿システム教員向け入稿ガイド 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・ SSI シラバスに関する疑義・指摘
②組織編制やFD等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員による学生の通信環境調査の実施 ・ オンライン授業の準備や実施方法などに関する情報共有の推進 ・ 各キャンパスにある学生相談室と連携した学生および教員への情報配信 ・ 授業相談窓口を SSI 事務と連携して設置
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入 <ul style="list-style-type: none"> ・

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

SSI は、昨年度も評価されたように、SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っているほか、全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めているなど、FD 活動は適正に行われている。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、学生支援や社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 全ての授業がオンラインとなったため、授業に関する情報・連絡などは、学習支援システムおよびメールなどを通じて行った。また年度初めの SSI 履修ガイダンスをオンラインで実施した。
【根拠資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20210323140800/) ・ SSI 履修のポイント (SSI カリキュラム委員会作成)

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

SSIは、新型コロナウイルスの対応として、2020年度においてFDミーティングが開催できなかったことから、年度末に開催した第12回SSI運営委員会に続いてFDミーティングを開催し、コロナ禍で実施したオンライン授業に関する報告や問題点、その改善方法、今後の課題などについて意見交換を行っている。また、学生への情報発信方法として執行部および事務からの連絡にメーリングリストを作成している。これらの点は評価することができる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。	
	年度目標	・本年度、新たにSSI 質保証委員会を編成（新委員を選出）し、同委員会を開催する。	
	達成指標	・SSI 質保証委員会を開催する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		19年度につづき、質保証委員を2名選出し、運営委員会の開催に合わせて、適宜質保証委員会およびカリキュラム委員会を開催した。審議事項としては、20年度新型コロナウイルス感染症対策に関し、特にオンライン授業となったことともなう諸課題の抽出および改善などについて協議・審議した。また、SSI 主催科目のシラバスについて、質保証委員が、第三者の立場より、適切な記載がなされているか確認を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。	
	年度目標	1. 19年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部に働きかける。 2. 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。	
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう、運営委員会で1号委員を中心に意見交換を行う。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう依頼した結果、19年度と同程度の科目や科目数の提供をうけることができた。 また、日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートを構成する科目の内容を見直すなど、カリキュラム変更を達成することができ、以後の全面改訂に向けて始動することもできた。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・アクティブラーニングの導入を模索する。	
	達成指標	・科目の特性や担当教員の意向を確認し、導入が必要、可能な科目を洗い出す。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	新型コロナウイルス感染症の影響によって、20年度は年間を通して、すべての科目がオンライン授業となった。その功名として、教員（兼任講師を含む）の多くがZOOMによるリアルタイムのオンライン授業を実施し、その機能の一つである、ブレイクアウトルームを用いた結果、アクティブラーニングの導入を進めることができた。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	・19年度に引き続き、以下に取り組む。 1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	達成指標	1. FDミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		2号委員委員によるFDミーティングやカリキュラム委員会において、コロナ渦におけるオンライン授業についての情報収集をおこない、委員間で情報共有を行った。 また、全学およびSSI生のGPCA平均集計表を作成し、運営委員会において成績に関する情報共有と意見交換を行った。	
改善策	学生アンケートをGoogleフォームにより回収することに改善したが、実施時期により、回収率が下がることが判明した。回収時期を前倒しし、回収率を上げるようにする。		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能なSSIの教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. SSIとの連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。	
	達成指標	1. SSIとの連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を提供してもらい窓口を設置し、執行部内で適宜共有・検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		S	
理由		新型コロナウイルス感染症の影響によって、20年度は年間を通して、すべての科目がオンライン授業となった。初めて実施するオンライン授業に対応するため、SSI執行部により「オンライン授業のサポートデスク」を設け、主には兼任講師の質問に対応した。それにより、目立った混乱は認められず、授業の運営をスムーズに進めることができた。 スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部所属教員との連携については、SSI主催科目の外部講師として協力を依頼し、登壇してもらった。	
改善策	—		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生支援
	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応に当たって必要な情報を適宜発信する。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図る。
6	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	運営委員会において、学生から得られたアンケート結果をもとに、SSI 参加学部教員と情報共有を行った。 コロナ渦にともない、大学構内に入構できない学生が多くいるなかで、大学キャリアセンターと連携して「アスリートのキャリア支援セミナー」をオンラインによって実施した。また、大学スポーツ協会（UNIVAS）による入学前の事前教育プログラムの実施を希望する部に対してセミナーの情報を周知し、いくつかの部が参加した。 上記の内容を含め、執行部および事務からの連絡をメーリングリストを作成し、情報発信を行った。
	改善策	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	実施 2 年目となった 20 年度は、オンラインでの授業実施にも関わらず、1 名の受講生が受講を修了した。 当該受講生は 2 年連続の受講生であり、履修に関する満足度が高いとの報告を事務局より受けている。
	改善策	—
【重点目標】		
・ 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。		
【目標を達成するための施策等】		
1. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。		
2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムを検討する。		
3. カリキュラム検討委員会を組織する。		
【年度目標達成状況総括】		
2020 年度は誰もが経験したことのない、新型コロナウイルス感染症が日本はもとより世界中で流行し、感染予防のためすべての講義がオンラインで実施することになった。そればかりか、緊急事態宣言が発出され、大学に入構制限がなされ		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

た結果、執行部ミーティングをはじめ、すべての会議がオンラインでの実施となった。そのような状況下において、重点目標である、日本スポーツ協会による公認スポーツ指導者制度の改定にともなう、SSI 科目のカリキュラム変更を実施しなければならなかった。

本インスティテュートのカリキュラム委員が中心となり、日本スポーツ協会との折衝や執行部および関連事務とのミーティングをオンラインで実施することで、年末には新カリキュラムが運営委員会で承認され、今年度の「重点目標」を達成した。それにより 21 年度から新カリキュラムでの授業運営が実施可能となった。なお、SSI カリキュラムは、インスティテュート設置後 15 年以上経過することから、2024 年度中に全面改訂を検討する準備を整えている。

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

SSI は、質保証委員会に関しては、質保証委員会を年 2 回に増やし、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証するなどしておおむね年度目標を達成している。

教育内容に関して、とくに重点目標である日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴うカリキュラム変更について、日本スポーツ協会との折衝や執行部および関連事務とのミーティングをオンラインで実施することで、年末には新カリキュラムが運営委員会で承認され、このカリキュラムの変更という今年度の「重点目標」が達成されている。

新型コロナウイルスによりすべての科目がオンライン授業となった功名として、教員（兼任講師を含む）の多くが ZOOM によるリアルタイムのオンライン授業を実施し、その機能の一つであるブレイクアウトルームを用いた結果、年度目標の一つであるアクティブラーニングの導入を進めることができた点も評価できる。

学生アスリートのキャリア支援の方策について、大学キャリアセンターと連携して「アスリートのキャリア支援セミナー」をオンラインによって実施されている。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・ SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	新型コロナウイルス（変異ウイルスを含む）によって、オンラインによる授業形態が急速に導入されたため、これまで年度に 1 回開催していた質保証委員会を年 2 回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証する。
	達成指標	春・秋学期中に 1 回、年度末にも 1 回、質保証委員会を開催し、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・ SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	1. 20 年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として拠出してもらえるよう、各学部働きかける。 2. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、その礎となる問題点・変更点などを抽出する。
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として拠出してもらえるよう、運営委員会を通じて各学部の SSI 運営委員に依頼する。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴取を行い、カリキュラム委員会で検討した後、運営委員会でも共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・ 学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	1. アクティブラーニング型の授業を増やし、その効果を検証する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		2. 大学が許可する対面授業において SSI 独自の科目を選定し、実施する。
	達成指標	1. 年度末に開催する SSI 運営委員会および質保証委員会において、アクティブラーニングの実施状況を把握し、その効果について協議する。 2. SSI 基礎科目（必修 7 科目）を独自に対面授業の対象とし、実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	昨年度につづき、学生を対象としたアンケートを実施し、以下について共有する。 ・ SSI 生の学習状況を把握する。 ・ SSI 学生の学習成果（成績）を把握する。
	達成指標	大学が実施するアンケートを活用して、SSI 生の学習状況を把握する。学習成果（成績）については、所属学部と連携し、必要に応じて個別に対応する。また各種アンケートの結果は、年度末に開催する SSI 運営委員会において共有する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に対し、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. スポーツ研究センター執行部と連携を図り、引き続き協力を要請する。 2. SSI 執行部を中心に個々の教員に依頼する。 3. 昨年度と同様、オンライン授業に関する相談窓口を SSI 事務局内に設置し、各種情報提供および教員個々の質問や相談に応じる。また得られた情報を執行部内で適宜共有・検討する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応・実施にあたって、必要な情報を適宜発信する。 4. 学生がかかえる様々な問題に対応するために、学生相談室と連携をする。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携して、SSI 学生に対して情報発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携して、SSI 学生に対して情報発信する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	22 年度以降の履修証明プログラム実施のために、リモート授業の開講の増加を検討する。
	達成指標	引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。
【重点目標】		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2024年を目標に、本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定である。発足して以来、初めてのカリキュラム変更となるため、現状の問題点を適切に把握し、カリキュラムの礎となる概要を策定する。

【目標を達成するための施策等】

カリキュラム委員会を軸として、カリキュラム改定委員会（仮称）を立ち上げ、カリキュラム改定に向けたロードマップを作成する。

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

SSIは、カリキュラムがインスティテュート設置後15年以上経過することから、2024年度中に本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定とされている。そのためにカリキュラム改定委員会を立ち上げカリキュラム改定に向けたロードマップを作成することとされている。

伝統的な学部の場合とは異なり、SSIという新しいインスティテュートの独自のカリキュラム体系が出来上がっていない現状を踏まえると、スタートしてから15年以上経過した現時点においてカリキュラムの抜本的改定作業に取り組むことは妥当な選択であり、年度達成目標としても適切な設定と思われる。きわめて困難な作業と思われるが、専門委員会を立ち上げて集中的な取り組みを行おうとしている点も評価できる。ただし、このカリキュラム改定委員会では、ロードマップの作成ばかりではなく、いわずものがであるが、インスティテュートの教育目標の見直し、目標達成のための適切なカリキュラムのあり方、学生の達成度評価の方法など、これまでの教育成果を踏まえたうえで、カリキュラム見直しの基本的視点と具体的手法のあり方についても、十分に検討することが望まれる。

また、それと同時に長年の課題である各学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として提出してもらえるよう依頼するうえで、当該科目がSSIの教育目標やカリキュラムポリシーに沿った科目に該当するか否かについて、該当学部と十分に協議することも必要と思われる。

【大学評価総評】

SSIは、とくに各種の専門競技を行っているアスリート学生を対象にスポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とするなど、スポーツを科学的・文化的に捉えると同時に学部の専門分野を追求し、知識の融合を図ることで高度なスポーツ文化の担い手としての人材の育成を教育目標とするSSIは、その設置から15年以上経過した。そうした時期に、インスティテュートのカリキュラム体系の全面的な見直し作業に取り組むことを当面の目標として設定したことはきわめて時宜にかなったものといえる。

その場合に、これまでの教育目標やそれに沿ったカリキュラムポリシーが十分に達成されているのか、不十分な場合にはどこに課題が潜んでいるのか、その課題を解決するためにはどのような点を再検討する必要があるのか、といった点について、専門委員会で十分に協議し、本インスティテュート関係者の間で共有することが必要であろう。また、そうした作業の取り組みの一環として、学生のニーズや評価を把握する作業が不可欠であろう。本インスティテュート受講者の卒業後の追跡調査やカリキュラム見直しのための学生に対する固有のアンケート調査の実施も検討してもよいと思われる。なお、自己点検・評価シートにおいて「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020年度目標が概ね達成されていた場合についても、次年度さらなる成果を出すためにも必要であると考えられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

連帯社会インスティテュート

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートの教育内容 について、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」「サードセクター協働論」が特色ある科目として評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づいた学生の研究報告(1年次に2回、2年次に2回)と、それに対する指導は高く評価できる。成績評価と単位認定も適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。2020年度中期・年度目標について、社会人学生の支援に関して前年度と同様に目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関して、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでほしい。

2020年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランを作成のうえ、目標達成のための施策を検討・実施していただきたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

・重点目標の「学生支援における学習支援」への変更は、学生の大半が学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、一般的な院生とは異なる支援策の必要性を考慮して決定した。これに基づき、学習支援に関する院生のニーズ把握の方法の決定、実施、ニーズ内容の整理を行ったうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく予定だった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業の導入への対応を優先する必要性に迫られ、大きな進捗はえられなかった。一方、オンライン授業の導入により、出張中の欠席や残業にともなう遅刻などが減少した可能性がある。これらの点を確認し、ハイブリッド授業の積極的活用の可能性などを検討していきたい。

・外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については、運営委員会と別に教務委員会を2回開催し、検討を行い、課題の抽出や可能な対策について議論した。ただし、具体的な対応策を決定し、実施するまでには至らなかった。

・学習成果の把握・評価に関して、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえで、他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組むことの要請を受けた点については、要請に基づく対応を取っていくことを確認したにとどまっており、今年度、具体的に取り組んでいきたい。

・2020年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランを作成のうえ、目標達成のための施策を検討・実施していく予定である。

なお、外国人学生の受け入れについては、2020年度については、「ゼロ」に戻った。しかし、問い合わせは複数きているので、応募、入学につなげていくように努力していきたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは、COVID-19感染拡大問題の影響で、重点目標である「学生支援における学習支援」(学習支援に関する院生のニーズ把握の方法の決定、実施、ニーズ内容の整理を行ったうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法)の検討が進捗しなかったため今年度の進捗を期待したい。社会人学生が多い連帯社会インスティテュートでは、オンライン授業の導入により、出張中の欠席や残業にともなう遅刻などが減少した可能性があり、ハイブリッド授業の積極的活用の可能性の検討は評価できる。

外国人学生の受け入れについて運営委員会と教務委員会が開催され議題となったことは評価できる。今後も定期的に議論の場を設け、外国人学生受け入れに向けた情報共有をしていただきたい。

II 自己点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>・コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」を設けている。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	
②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>・労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。これに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べることになった。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス。</p>	
③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	
③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>・連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生が受講できるようにしている。2020年度は、新型コロナウイルスの感染により来日がほとんどなかったが、2019年度にはアメリカのNPOの弁護士（11月）とソーシャルワーカー（12月）を講師として招き、セミナーを実施するなどの実績をもっている。また、「比較社会労働運動史」や「NPO論Ⅰ」、「NPO論Ⅱ」「NPOとソーシャルチェンジ」などにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス。</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※履修指導の体制及び方法を記入。</p> <p>・2016年度まで新生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っている。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー。</p>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

態にしていますか。	
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p>・新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。</p> <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・上記の資料：「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」。</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>・1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。さらに、1年次、2年次にそれぞれ「研究報告」を年2回（春と秋）開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも授業の2コマ相当の時間を確保している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>① 通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合その内容と教育活動の効果について教えてください。</p> <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・COVID-19 への対応・対策として、オンライン授業を導入しているが、質問や意見を言いやすいようにするためチャット機能を活用している。また、学生同士で少人数での議論ができるようにするため、ブレイクアウトルームなどの機能も用いるなどの工夫をしている。効果については、検証していないので、不明。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>・成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p>・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</p> <p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」。</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>・学生は10人程度と少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。また、運営委員会に学位授与者のリストを提出、確認している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行っている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。 ・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行っている。 	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つように、基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。 ・各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。 ・各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。 ・修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し、3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。 	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、推薦組織が所属組織になっており、修了後は所属組織に戻るため、特段把握する必要はない。2020年度も同様であった。 ・NPOプログラムの学生は、推薦制度に基づく選抜ではないが、通常、社会人であるため、新たな就職先や進学先はない。ただし、2020年度には、18年度に法政大学の学部を卒業してすぐに入学した学生がいたが、進学指導の要望はなく、本人自らが就職先を探し、就職した。 ・これらについては、運営委員会で情報として共有している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果を把握するために、教務委員会において、以下について検討を行った。 ・学習支援に関連して、プログラムごとにニーズ把握を行うこと。 ・教務委員会において、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための具体的な方法などについて検討すること。 ・ただし、これらについては、具体化に至っていない。 	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2020年度授業改善のためのアンケート」。</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は、運営委員会に提示し、授業改善に向けての資料として有効活用している。また、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設問）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2020年度授業改善のためのアンケート」。</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を設けている点は評価できる。

教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると評価できるが、学習成果の測定指標の導入については

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

今年度教務委員会について検討が始められているが、来年度具体化に至るよう引き続き検討が望まれる。

大学院教育のグローバル化推進にあたり、COVID-19 感染拡大により外国人講師の招聘が困難だったとされているが、今後はオンラインやオンデマンドなどのシステムの利用により、活性化が可能だと考えられる。

COVID-19 への対応・対策として、オンライン授業を導入し、質問のためのチャット機能の活用や、学生同士での人数での議論のためのブレイクアウトルームの活用などの工夫は評価できる。その効果については検証していないようだが、学生へのアンケートやインタビュー等により検証していただきたい。

ほとんどの項目が根拠資料なしとなっているので、自己点検を立証できるように、なんらかの資料を作成あるいは記録することで、提示する工夫をしていただきたい。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で以下のような取り組みを行っている。 <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。2020年度は、9月と2月に実施した。これらの内容については、随時、教務委員会に報告し、フィードバックを受けている。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2020年度授業改善のためのアンケート」。 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教員の判断に任せている。ただし、授業のひとつ「連帯社会とサードセクター」は、事前予約制により一般の聴講を認めており、「社会貢献活動」の一環といえる。また、この授業は、現場の第一線で活躍している人々から講義を受けるもので、それを通じて、研究活動に現場の声を反映させていく一助になっている。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議をオンラインで実施しているが、組織編制やFDに影響はないと思われる。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは、大学の準備したものだけでなく連帯社会インスティテュートにおける独自の授業評価アンケート調査を作成実施し、授業改善の議論の資料とされていることは大いに評価できる。

労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。「連帯社会とサードセクター」の授業は、事前予約制により一般の聴講を認めており「社会貢献活動」の一環となり、また、研究活動に現場の声を反映させていく効果がある。

COVID-19 対応・対策のため会議をオンライン化し、問題なく組織編制やFDが行われていることは、高く評価できる。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
・特になし。
【根拠資料】
・

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは、学習支援やオンラインでの指導方法等について、運営委員会、教務委員会、また、連帯社会研究交流センターとの会等議において議論が行われていることがインタビューにより確認できた。今後の対応としては、議論等を行った場合には、議事録として残しておく必要があると考えられる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	○授業科目 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、授業改善に向けた検討を行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に、検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握する。 ・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらが決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成すること。
		教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
	年度末報告	<p>理由</p> <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、シラバスの目標に基づき、点検、意見交換が行われ、来年度にフォーマットを作成する準備を進めている。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、履修時に独自のアンケートを行い、要望をくみ取ることが決定された。 <p>○修士論文</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などの把握を進めている。 ・各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、開始時と、中間時、終了時の授業にコメント受ける。フォーマットは来年度に作成する予定。
	改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて教務委員を中心に検討する。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、教務委員を中心に議論する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に検討を行う。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関する会議が行われること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、会議を開催し、変更の必要性について検討すること。
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <p>自己評価 A</p> <p>理由</p> <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習効果を上げるためのFD実施に関する会議を開催した。その結果、他大学のオンライン授業の方法を学ぶ必要性などが確認された。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握、検討していく必要について議論する会議を開催し、必要性は確認されたが、実際法方法は来年度以降に検討することになった。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて会議を開催、副査に事前に草稿を送り、指導を受ける方式検討することになった。 <p>改善策 —</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
3	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目について、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を作成し、この基準案について、検討する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、教務委員が同様の基準案を作成、検討する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて、教務委員が中心になり、判断する枠組みを検討する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を、教務委員が中心になり、検討する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、3教員全員で検討し、妥当とされる割合が80%以上になること。 ・オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、3教員により妥当とみなされること。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を策定すること。その方法に基づき、学期末に単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を、年度内に開催すること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、年度内に開催すること。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成の準備を進めているが、完成に至っておらず、来年度に先延ばすることになった。 オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、3教員により妥当とみなされることになった。 3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を成績評価時に把握することとした。その結果、学期末に単位取得の割合は、いずれも目標値の80%以上となった。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を開催したが、具体的な枠組みの決定は来年度に行うことになった。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を開催したが、具体的な枠組みの決定は来年度に行うことになった。
改善策	—	
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を教務委員を中心に開発する。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、教務委員を中心に必要な手段を検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて教務委員を中心に検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検する。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を教務委員を中心に検討する。
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	B
年度末報告	理由	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから推薦団体に満足度を確認を依頼することが確認された。 ・一般入試については、NPO プログラムを中心に広報案を作成することが確認された。また、協同組合の広報の課題の抽出と実施方法を検討することになった。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含めた実施案作成には至っていない。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、口述試験の評価基準を検討していくことになり、研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などの意見が出されたが、決定に至っていない。 ・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかることが確認された。 ・OB/OG と在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになった。
	改善策	会議を通じて、課題の抽出や対応策についての案は提示されたものの、実施に踏み出せていないのが現状である。実施に向けた会議を開催し、結論をえるとともに、実施体制を整備していく。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に、プログラム担当教員が分担して行う。	
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	○プログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えのインプットを受ける方法について検討し、各プログラム教員がフィードバックを受けることが確認された。しかし、実施に至っていない。
		改善策	各プログラム教員が非常勤の教員からフィードバックを受ける方法を決定するために会議を開催する。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。	
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を、教務委員が中心になって議論、決定する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員が中心になって検討し、整理する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって検討する。	
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業について、各教員は、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員を中心に検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。 ○その他	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法を決定すること。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、全員がオフィスアワーを設定していることが確認された。論文指導に関しては、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討した結果、副査への事前の草稿のチェックを依頼することになった。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、プログラムごとにニーズ把握を行うことになった。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための具体的な方法などについては、議論を行ったが、決定に至っていない。
	改善策	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。 ○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ○入学者の卒業割合を80%以上に維持できている。 ○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信している。この研究成果の発信方法については、大学の業績開示のサイトを利用することが確認された。
	改善策	—
<p>【重点目標】</p> <p>学生支援における「学習支援」方法の改善</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。

【年度目標達成状況総括】

年度の目標達成状況を総括したなかで、目標の進捗状況を確認するために限定した会議を行ってこなかったことが指摘された。この点を踏まえ、今年度は、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランの検討などを実施していくための会議を2回開催した。これにより、年度目標の達成度が向上したと判断している。しかし、コロナ禍により、授業や指導の大半がオンラインに切り替わったことにより、会議を開催し、議論を通じて、課題解決への方向性や手法が提起されたものの、実施するに至らなかったものも少なくない。未実施のものは、来年度に引き継いでいくことになる。

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

連帯社会インスティテュートの2020年度の達成状況については、教育内容、教育方法、教育成果については、ほぼ達成できていると評価できる。ただし、具体的な学習成果を把握・評価するための方法については、今後の対策が期待される。

一方、学生の受け入れ、非常勤の教員の考えのインプット、については、達成が不十分であり、適切な会議を通じた実施体制の構築が不可欠である。

重点目標である、学生支援における「学習支援」方法の改善については、COVID-19対応のため、進捗していないようなので、引き続き検討していくことを期待する。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて2020年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマットを作成する。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員会を中心に決定する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員会を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握した資料を作成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行うためのフォーマットを作成する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基づき、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、それらが決定、実施の体制が整備されること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理された資料が作成されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成されること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて、他の研究科や大学の授業の方法を調査、整理すること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していく具体的な方法を議論し、決定すること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に見直しを行うこと。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関して、他研究科や大学の授業方法を調査、整理されること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握するための具体的な方法について決定されること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更かを判断し、変更の場合、新たな方法が決定されること
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	○授業科目

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を作成の必要性を検討し、必要な場合は、この基準を設定し、導入する。 ・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、必要な場合は、導入する。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、具体策を決定する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、基準や指標に基づく指導体制を決定する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた行程表を決定する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。 ・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが決定されること。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入の是非を決定すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度の確認を依頼する。 ・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案を作成する。また、協同組合プログラムの広報の課題の抽出と実施方法を検討する。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め検討する。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースに、具体的基準を決定する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定する。 ・2020年度にOB/OGと在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、その回答が整理されること。 ・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案が作成されること。協同組合プログラムの広報課題の抽出し、課題に対応した広報手段が決定されること。 ・インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について検討結果が出され、次年度以降に具体化されるメドがつけられること。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案が作成されること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定されること。 ・OB/OGと在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について決定されること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	○非常勤の教員の考えのインプット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤の教員の考えのインプット ・2020年度にプログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えを受ける方法について検討し、各プログラム教員がインプットを受けることが確認されたことを受け、教務委員会でインプットを受ける方法を決める。その方法に基づき、各教員は、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有し、次年度以降に具体策を導入するメドをつける。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤の教員の考えのインプット ・教務委員会でインプットを受ける方法が決定され、その方法に基づき、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有され、次年度以降に具体策を導入するメドがつけられること。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業に関する内容のうち、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているかについては、2020年度に把握された。これを踏まえ、活用策について検討する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前に複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリット検討が必要という認識がだされ、2020年度に副査への事前の草稿のチェックを依頼することになった。その結果を検討し、改善策を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって具体策を検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業について、オフィスアワーの活用策について議論され、一定の結論がえられること。 ・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策が提示されること。 ○その他

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえることで、次年度以降の支援策が改善される道筋がつけられること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法が決定されること。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○修了生の割合の高率維持 ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。 ○研究成果の発信 ・専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○修了生の割合の高率維持 ・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持されること。 ○研究成果の発信 ・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていること。
<p>【重点目標】</p> <p>「学生支援における学習支援」</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。また、出張や残業などによる欠席や遅刻への対策として、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入を検討する。</p>		

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

連帯社会インスティテュートの2021年度各評価項目は、ほぼ2020年度を引き継いだ内容で、適切な中期目標・年度目標があげられており、それを評価する達成指標も適切であると評価できる。2020年度に対応できなかった、学生の受け入れ、非常勤の教員の考えのインプット、等の項目について、更に具体的な対策が考慮され記載されていれば、2021年度の運営で良い経過が期待できる。

重点目標の「学生支援における学習支援」では、昨年度から引き継いだ施策とともに、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入の検討が加えられており、社会人学生に対し有効な施策となることが期待できる。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートでは、コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を設けている点は評価できる。カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われ、研

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると評価できるが、学習成果の測定指標の導入については検討が望まれる。

大学院教育のグローバル化推進にあたり、COVID-19 感染拡大により外国人講師の招聘が困難だったとされているが、オンラインやオンデマンドなどのシステムの利用により、活性化が可能だと考えられる。COVID-19 への対応として、オンライン授業を導入し、様々な工夫をした点は評価できるので、学生へのアンケートやインタビュー等によりその効果を検証していただきたい。研究科として学生支援や学習環境、教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策については、学習支援やオンラインでの指導方法等について、運営委員会、教務委員会、また、連帯社会研究交流センターとの会等議において議論が行われていることがインタビューにより確認できた。今後の対応としては、議論等を行った場合には、議事録として残しておく必要があると考えられる。

重点目標の「学生支援における学習支援」では、昨年度から引き継いだ施策とともに、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入の検討が加えられており、社会人学生に対し有効な施策となることが期待できる。

なお、自己点検・評価シートでの自己点検において「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020 年度目標が概ね達成されていた場合についても今後の発展のために必要であると考えられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

総合理工学インスティテュート

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

総合理工学インスティテュートにおける大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われていると判断する。学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があるとの評価結果に対し、IIST 在学学生を対象に授業・生活アンケートを実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけた PDCA サイクルを仕組みとして確立する活動は高く評価できる。科目の充実については、既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討するという目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を IIST 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことを高く評価する。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設し科目整備を進めたことを評価する。発表論文を整理、リスト化した結果、101 件のジャーナル論文、学会発表を確認し、在学学生の研究レベルの高さが証明できたこと、特に3名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。留学生の入学時研究能力のガイドラインを策定、修士課程にも同様のガイドラインを策定し、研究能力の高い学生を受け入れ、かつ恒常的定員確保可能としたことを評価する。英語講義・研究指導を担う教員増という目標に対し、国際化専念教員を1名採用したことを評価する。既存の6つの横断的学びのフィールドを見直し、留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供するという目標は極めて重要であり高く評価できる。

以上、IIST の自己点検・評価活動は全般的に適切であると判断できる。2019 年度末報告の改善策や今年度の目標を踏まえた、今後の進展を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

フィールド新設について、2020 年度直ちに新設に向けた具体策の策定には至らなかった。着実に計画を進めるため、フィールド新設にあたり、インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。2020 年度インテリジェンスロボティクス分野では修士課程で2名を受け入れ、データサイエンス分野は多くの受け入れ学生研究分野で何らかの関連を持っている。実質的に2フィールド分野を受け入れ重点分野として学生受け入れを重点的に進めてゆきたい。科目整備についても上記重点フィールドの充実を軸に IIST に必要な科目を系統的な見直しを 2021 年度進めてゆきたい。高い評価を頂いた在学学生研究成果の調査に加えて、2021 年度は卒業後の進路調査、在学学生については進路希望調査を実施した。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

総合理工学インスティテュート（以降、IIST）は理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下で少ない専任教員にも関わらず 2016 年度から修了生を輩出するまで着実に進捗し、昨年度からはさらにインテリジェントロボティクス（以下、“IR”と略記）とデータサイエンス（以下、“DS”と略記）の開設とともに学生の受け入れを開始するなど、国家戦略と整合した取り組みは高く評価できる。DS プロパーの学生入学を実現することが引き続きの課題として残されており、今後さらに両フィールドの人材育成・研究を向上するためには、IIST の実像が学外からも見えるような URL コンテンツの整備と広報活動が必要である。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成してい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

るか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <p>・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>【修士】 インテリジェントロボティクスフィールド・データサイエンスフィールドの新設に向けた検討を始めている。フィールド新設にあたり、インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。</p> <p>【博士】</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士・博士共通】 IIST コロキウムを2回ウェビナー形式で実施した。IIST コロキウムを通じて研究交流を推進するとともに IIST への留学生受け入れに結び付けたい。 ■2020年11月5日、ベトナム Thuyloi 大学(TLU)大学とインテリジェントロボット工学とメディア情報処理の進歩と題したウェビナーを実施し、互いに知能ロボット研究、AIを応用したメディア情報処理に関する研究紹介をデモンストレーションを交えて行った。(添付資料1参照) ■2021年3月17日チュニジア Univ. Carthage とインテリジェントロボット工学、機械学習、分散システムの今日的課題と題したウェビナーを実施し、互いに知能ロボット研究、データサイエンス・AI技術の経営工学・画像処理分野への応用について研究紹介を行った。(添付資料2参照)</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 添付資料 1 : TLU-IIST_Joint_Webinar2020 添付資料 2 : Univ.Carthage-IIST_Joint_Webinar2021 	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※履修指導の体制及び方法を記入。</p> <p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p>【修士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p> <p>【博士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p> <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 添付資料 3: IIST2020 ガイダンスレジュメ 	
<p>③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【博士】</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
修了生に対して就職・進学状況の調査、在学生については修了後の進路希望調査を実施した。その結果 IIST 生は研究指向が強く博士後期課程修了の学生については大学、研究機関、修士課程修了者については博士後期課程進学者が多いことが示された。（添付書類 4 参照）	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・添付書類 4 : IIST 修了学生の進路調査 2020 年度</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>【修士・博士】 IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 133 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・添付書類 5: IIST 在学生の発表リスト(2020 年度)</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>昨年度、今後授業改善アンケートを実施し IIST 運営委員会で結果を共有し改善に向けた取り組みを行うことと定めた。9 月入学のため、春学期修了後次回アンケートを実施することとした。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

IISTは、学生はいずれも順当に研究業績を残しており研究指導は十分な水準で進められている。大学院の一般研究科では研究業績が教育効果の有力な計測指標の一つとなるが、IISTの場合にはグローバル人材の育成も重要なミッションである。自己点検・評価では「国際誌・国際会議への発表」を主たる評価項目としているが、人材育成の観点からIIST修了生のキャリア追跡調査、IISTプログラムを履修した理工学・情報科学専修の大学院生のグローバル度を計測・評価することなども必要である。IIST修了あるいは専修の大学院生に進路希望や修了後の進路調査を実施していることは高く評価できる。成立後まもない現在の時点ではキャリア追跡に関する十分なデータがそろっておらず、今後もしばらく調査を継続しなければならないが、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性についても検証できるように調査項目を検討する必要がある。IISTでは人材ネットワーク、留学生母国の諸機関との連携などによって教育プログラムの国際展開を図ることも重要である。例えば、修了生 Alumni の組織化などにより IIST への継続的支援体制を構築することも検討の余地がある。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S A B
<p>【FD活動を行うための体制】※簡条書きで記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※簡条書きで記入。 ・</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>
<p>※取り組みの概要を記入 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

IIST は、情報科学研究科で実施している中国模範的ソフトウェア学院連盟との DDP 協定による留学生の受け入れ体制の充実、理工学研究科における理系横断型セミナーの実施や留学生候補者への PR 強化などは IIST の支援につながる取り組みとして評価される。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。</p>
<p>①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>
<p>※取り組みの概要を記入 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>
<p>【根拠資料】</p>

【この基準の大学評価】

IIST は、COVID-19 感染拡大の状況下で一般研究科以上に IIST 独自の留学生や学生の海外派遣に対する特別の対応が求められ中、オンライン形式によるワークショップ開催などの対応を行っていることを確認することができた。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。	
	年度目標	留学生の学びのニーズに対応すべく懸案の2フィールドすなわち、インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (いずれも仮称) の新設を目指す。両フィールドを研究科横断的とし、特色ある総合的な学びの環境を提供する。	
	達成指標	インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (仮称) の新設	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	フィールド新設にあたり、インテリジェンスロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。本年度インテリジェンスロボティクス分野では修士課程で2名の受け入れ、データサイエンス分野は多くの研究分野で何らかの関連を持っている。
		改善策	本年度直ちに新しいフィールド新設の検討には至らなかったが左記「理由」で述べた方針に従い、着実にフィールドの新設に向かう準備を進めたい。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	IIST 科目の統廃合、新設により計画中的新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る。	
	達成指標	フィールドに対応した英語科目の体系化達成	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	C
		理由	留学生の学習ニーズを十分に把握した上で英語科目のカリキュラム改訂をする必要があり、具体的な成果は得られなかった。
		改善策	教育課程・教育内容に関する自己評価と関連させ新フィールド新設を念頭に抜本的な英語科目体系化を次年度より検討する。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成する。IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。	
	達成指標	刊行・発表論文数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	前年度に引き続き、研究論文数を調査し、在籍者の公表論文数 132 件と高水準にあることを確認した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
	所見	—	
	改善のための提言	—	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
	年度目標	定員充足を達成しつつ、昨年度策定したガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する。	
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	定員についてはコロナ禍で合格発表の後、辞退の学生が出るなどし、充足に至らなかった。質の高い学生の確保については、修士課程から博士課程に内部進学する学生が多く、達成できていると判断される。
		改善策	コロナ禍により入国困難な学生に対し、入学繰り延べの措置をとった。合格者の内一名はこの措置により来年度繰り延べ入学することとなった。
質保証委員会による点検・評価			
	所見	—	
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。	
	年度目標	教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目（IIST 学生からの受講希望により英語対応に切り替える）を拡充する。	
	達成指標	英語講義対応教員数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	英語講義担当教員数は限られているが、IIST 担当任期付き教員を専任教員とし、新たに IIST 担当任期付き教員を採用することとした。現在公募中であるが、この措置により来年度英語科目が拡充される。
		改善策	英語教育負担、受け入れ事務負担を軽減し、研究指導に専念できる環境を整備し受け入れ教員数を拡充する。
質保証委員会による点検・評価			

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		所見	－	
		改善のための提言	－	
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる		
	年度目標	キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。		
	達成指標	進学・就職率		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	在学生について、進路希望のアンケート調査を行い就職希望動向を把握することができた。	
		改善策	アンケート調査を精査し、キャリアセンターと協働しキャリア支援のありかたを検討する。修了生の追跡調査を行い、進路希望との整合性を調査する。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		－		
		改善のための提言	－	
No	評価基準	社会貢献・社会連携		
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。		
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。		
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	在学生の論文発表数(132件)、博士受け入れ数5名のうち3名が内部進学と多く、質の高い学生を受け入れている。	
		改善策	－	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		－		
		改善のための提言	－	
【重点目標】				
留学生の学びのニーズが高い新規フィールド（インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドいずれも仮称）の新設を目指す。				
【目標を達成するための施策等】				
IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語対応科目の統廃合を行うことにより系統的な授業カリキュラムを構築する。運営委員会及び必要に応じて特設委員会を設け研究科、専攻横断的な検討を進める。				
【年度目標達成状況総括】				
学修成果については、発表論文数の調査より、昨年度同様在学生は優れた研究成果を挙げており、評価される。このことは教育の質とともに、入学時、受け入れ教員との事前マッチングを丹念にとることにより入学者の質の担保ができてい				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ることが大きな要因と思われる。新たなフィールド新設については、新設予定フィールドの受け入れ実績を積みながら、着実に検討を進めることとした。計画が後退したかのように思われるが、拙速にフィールドを新設し受講者を欠く科目を設置することがないようにしたい。本年度新設予定であったインテリジェントロボティクスフィールドで2名（うち1名はコロナ禍のため入学時期を来年度に繰り延べる措置をとった）の修士学生を初めて受け入れたことにより新しい方針の第一歩を踏み出すことができたと思われる。英語科目の充実については、IIST 担当の任期付き教員を応用情報工学専攻の専任教員として採用、新たに後任を公募中であり、このことにより英語科目の充実を図ることができる。さらに、一般教員についても、研究指導に専念できる環境を整備し留学生受け入れを推進したい。本年度はコロナ禍で海外現地広報ができなかったか本年3月に実施したチュニジアとのウェビナー等を範として、オンラインによる広報、学術交流を推進したい。

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

IIST は、受け入れ時に学生と教員との match making がなされ、学生の質を確保している点は高く評価される。学生支援の年次目標・到達指標として「進学（就職率）」を設定しているが、IIST の人材育成ミッションを鑑みれば就職内容（グローバル的資質を活かした職域であるか）もさらに重要であり、修了生がグローバルな profession にどれだけ就いているかなどをあらわす到達指標に見直すことが推奨される。海外とのウェブ会合は時差の問題が軽微なアジア、オセアニアなどへの展開も視野に入れながら今後是非継続頂きたい。また、パンデミックを前提とする入試管理体制を検討することが必要である。一方、出口管理として、キャリアセンターとの連携の在り方について検討することが望ましい。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査などから両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
	達成指標	インテリジェンスロボティクス・データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織の確定
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	新設を目指す2フィールドを念頭に IIST 科目のカリキュラム改編にむけた検討を行う。
	達成指標	IIST 設置科目の体系化
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	IIST 担当の任期付き教員を採用し、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる
	年度目標	昨年度実施した、終了後進路調査・進路希望調査にもとづき、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数

【重点目標】

IIST は 2016 年 9 月に文科省スーパーグローバル大学創生支援を受けて設立された。2023 年度に文科省の財政支援が打ち切りとなるため、現在それ以降継続可能かどうかの検討に入っている。IIST 継続に向けて自己点検評価を踏まえてこれまでの活動を総括することが本年度最重点目標である。

【目標を達成するための施策等】

これまでの活動実績を、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から評価を行い、本プログラムが存続する価値があるかについて担当理事も含めて、教学・経営面から総合的に検討する。

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

IIST は、記載の通り、2023 年度以降の運用体制を視野に入れておくことは必要である。IIST は運用が始まったばかりであるため、IIST あるいは情報科学・理工学研究科だけではなく全学規模で 2023 年問題を議論しなければならない。IIST のままでさらに発展することが最も望ましい姿であるが、発展的に改組・再編する場合には IIST の資源を有効に利用し既存研究科内での国際的枠組みを充実する (ex. 外国人特別入試枠の増員、外国人教員枠の増員あるいは既存枠から外国人教員枠への転用、など)、あるいは新たな国際専攻を創設するなど、様々な選択肢を検討する必要がある。何故なら、SGU 申請時において本学は大学改革にまで踏み込んだグローバル人材育成プログラムの創出を宣言していたからである。この場合、HOSEI2030 との整合性が重要である。一方、SGU (タイプ B) はわが国の社会のグローバル化をけん引するという役割を担っていることから、現状のように留学生に偏重気味の研究教育だけでは従来の外国人特別枠を分離独立させたことと大差がない。日本社会に還元されるグローバル人材を育成することが視野におくことがより重要である。学修ポートフォリオなどによる学びの可視化も申請時に本学が標榜していた項目であり、今一度確認し実施していない場合には再考しなければならない。

【大学評価総評】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

IIST は 2016 年以來、理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下でグローバル人材育成が進められ、短期間のうちに修了生を輩出するまでに進捗していることは高く評価できる。昨年度より新規フィールドとして IR と DS を開設した点は時宜を得ており、学生の受け入れ実績も高く評価される。二度にわたるベトナム・チュニジアとのウェブ形式コロキウムの取り組みは高く評価され、今後は水平展開も含めて持続的に発展することが期待される。IIST 在学生の研究業績は 133 件の学術論文発表など高い水準にある。修了生はまだ少数であるため、修了後のキャリア追跡調査をしばらく継続して、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性を検証することが望まれる。一方、IIST 専修生だけではなく IIST プログラムを履修した理工学・情報科学研究科の大学院生のグローバル度を計測・評価することも望ましい。外国人留学生の場合には修了後に IIST との関係が希薄になることが懸念されるため、IIST-Alumni を組織化し IIST への継続的支援体制を構築すれば、人的な国際ネットワークを維持しグローバル人材を継続的に育成できる可能性がある。DS フィールドへの学生入学と教育は今後の継続的課題であり何らかの対策を講ずることが必要である。いずれの研究フィールドについても、より多くの学生を集め海外組織とのネットワークを構築するためには、URL の整備や多角的な広報を通して IIST の実像を可視化し学内外に周知することが何よりも重要である。残念ながら現状のままでは URL から IIST を理解することは難しい。既存二研究科の教育研究活動、教育組織などとリンクした URL コンテンツを整備すること、コロキウムなど IIST 独自の取り組みを公開アーカイブ化して URL にアップロードすること、などは現実的で早急に実現できる整備内容である。IIST の設立経緯を勘案すると、今後しばらくは理工学・情報科学分野を中心に IR と DS の研究教育を進めることとなるが、IR についてはさらに生命科学へ展開する可能性があり、DS は全文理科学分野に軸足を持つフィールドである。中長期的には学内の教育研究資源を利用した総合大学として IIST 研究フィールドの水平展開も今後の戦略に位置づける余地があり、今後に期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。